

I. 「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」：1。

1. : 14から、「ことば」とは、イエス・キリストの事だと分かる。

ヨハネが、イエス様の事を「ことば」と言った理由。

①「ことば」は「人格（罪のない神のことばは、偽りが一切なく、真実な人格を現わす）」を意味し、「キリストは神の知恵」（「キリストは私たちにとって、神の知恵」Iコリント1：30参照）という意味。

「知恵であるわたしは分別を住みかとする。・・・主は、その働きを始める前から、そのみわざの初めから、わたしを得ておられた。・・・地の基を定められたとき、わたしは神のかたわらで、これを組み立てる者であった。わたしは毎日喜び、いつも御前で楽しみ、神の地、この世界で楽しみ、人の子らを喜んだ。」箴言8：12-31（神の創造の御業は、神の知恵によって行われた）と、本日の箇所を共に読む時、理解の光が与えられる。

②旧約聖書の預言が指示していた「ことば」、成就した「ことば」。

③神を説き明かされた「ことば」。「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」：18。

2. 「初めに、ことばがあった」。「ことば」であるキリストは、初めから、永遠に存在されている。キリストが、存在されていない時は、なかった。

3. 「ことばは神とともにあった」。ことばの人格性が示されている。「神とともにあった」：キリストなる神は、父なる神と聖霊なる神と積極的な交わり、互いに愛し合う永遠の関係を持っていられる。且つ、バラバラの3つの神ではなく、「ともにあった」：三位「一体」のお方。

4. 「ことばは神であった」：キリストは、被造物ではなく、全能の神ご自身。父なる神、子なる神、聖霊なる神は、人格（位格）の区別がありながら、「一体」のお方。これは神秘。

II. 「すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。」：3。

キリストは、天地創造の神。すべてのものは、神の「ことば」で造られた。「神は仰せられた。『光があれ。』すると光があった。」（創世記1：3）。他の創造のすべて「神は仰せられた」「そのようになった」とある。神の「ことば」は、発音だけではなく、実体、偉大な力がある。それ故、神の「ことば」である聖書には力がある。是非読み続けたい。私達を造り、命を与えて下さった神。この偉大なお方が、へりくだり、クリスマスに赤ちゃんになり、私達の罪の為に十字架で死ぬために生まれて下さった。感謝します。

III. 「この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。」：4。

キリストに命があった。神であるキリストは、すべての命の源の方。すべての生物、そして私達に命があるのは、キリストのおかげ、恵み。何一つ当たり前、当然なことはない。すべては神の恵み。神に、一瞬、一瞬、生かされている命。キリストを信じると永遠の命までいただける。感謝！

「このいのちは人の光であった」。命であるキリストは、私達に神を啓示、教えて下さる光＝「ひとり子の神が、神を説き明かされた」：18。クリスマスにこの世に来られたキリストは、「ことば」と「行い、生活」によって、神がどのような方か、私たち人間に教え、説き明かされた。私達の行くべき道を照らして下さる光。感謝！

IV. 「光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。」：5。

救いの光であるキリストは、罪の闇の中に輝いている。やみ＝罪と悪魔の力は、命の光であるキリストに打ち勝たなかった。救いの光であるキリストは、クリスマスに生まれ、十字架で死に私達の罪を償い、死に勝利し、復活し、主を信じる私達に救い、罪、死、悪魔、悪習への勝利、永遠の命を与えて下さる。感謝！

V. 神の驚くべき恵みへの人間の二種類の応答

1. 残念な応答「すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。この方はもともと世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。この方はご自分のくじにいられたのに、ご自分の民は受け入れなかった。」：9-11。

私達は、どうだろうか？

2. 神に喜ばれる応答「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名（キリストご自身）を信じた人々には、神の子ども（罪の赦し、神に受け入れられ、神に愛され神の愛の訓練を受け育てただけの子供、神の国、祝福を相続できる恵み）とされる特権をお与えになった。」：12。この素晴らしいキリストを信じる人は幸いである。

VI. 「この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」：13。

この御言葉は感動的な御言葉！私達が、主を信じ、新生し、洗礼を受けたいと願うのは、血族や人間の力の意欲でも、自分の欲求でもなく、ただ、神の恵み、憐みで、御霊なる神が、罪を示し、主を信じる信仰、洗礼を受ける願いを与えて下さるからである！何という恵み。

VII. クリスマスのこの時に、神への感謝！

「神は、実に、そのひとり子をお与えになった（クリスマスに、十字架に）ほどに、世（私達）を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びる（永遠に神から離れ、永遠に苦しむ）ことなく、永遠のいのち（素晴らしい神との交わり＝聖霊による、神を知り続け、永遠に神に愛される命）を持つためである。」ヨハネ3：16。

クリスマスはこの時に、三位一体の神に、心から感謝します。